

## 触媒学会会長候補者「経歴と会長としての抱負」

### 1) 候補者指名

関 浩幸（せき ひろゆき）



### 2) 生年月日

1962 年 6 月 21 日

### 3) 略歴

1990 年 東北大学大学院 工学研究科 博士課程後期課程 修了  
三菱石油（株）（現 ENEOS（株））入社

2010 年 JX 日鉱日石エネルギー（株）（現 ENEOS（株））  
中央技術研究所 プリンシパルリサーチャー

2014 年 同 フェロー

2018 年 JXTG エネルギー（株）（現 ENEOS（株））退職  
日揮触媒化成（株）入社

2024 年 日揮触媒化成（株）理事

### 4) 所属・職位

日揮触媒化成（株）石油精製触媒研究所・理事

### 5) 専門分野

触媒化学、石油精製、C1 化学

### 6) 受賞歴

2012 年 石油学会 技術進歩賞

2015 年 石油学会 技術進歩賞

2017 年 触媒学会 学会賞（技術部門）

2018 年 触媒学会 技術進歩賞

2024 年 触媒工業協会 技術賞

### 7) 会長としての抱負

近年、カーボンニュートラルに向けた研究が盛んになる中、触媒学会は産官学が連携して分野横断的に触媒に関する情報の交換・発信を行う場として積極的に活動しています。特に触媒討論会は「本質的な議論を楽しむ」文化があり、この伝統を守りつつ、更なる学会活動の活性化のため、以下の点を取り組みたいと考えます。

将来の学会を担う若手研究者（大学・企業）育成のための支援を大幅に拡充していきます。海外渡航支援等の従来制度に加え、企業から多くの若手が参加

できる場を提供していきたいと思います。

触媒学会の国際的プレゼンスの向上に努めます。2026 年 TOCAT10 および 2028 年 ICC の成功に向け、粛々と準備を進めます。また、このような国際舞台で日本の研究者が活躍できるような支援を考えていきます。

企業目線から、学会運営の基盤構築に取り組みます。特に、本年度に引続き、学会内の規程の見直しや新設を行い、これらを完成させたいと考えます。